

Local Use of Bamboo for the Conservation of the Regional Landscape Surrounding Bamboo Forests

栗田, 融
Faculty of Design, Kyushu University

<https://doi.org/10.15017/17128>

出版情報 : 九州大学, 2009, 博士 (芸術工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

アンケート調査票（小・中学校）

平成21年8月
 九州大学大学院芸術工学部
 環境・遺産デザインコース
 緑地環境設計研究室

【大分県における竹の活用に関する調査】へのご協力をお願い

拝啓
 皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
 現在、私どもの研究室では「竹の活用を基とした地域景観の保全に関する研究」というテーマで研究を進めております。
 この度、竹の活用を通じた地域の環境整備のあり方を探るため、大分県の小学校および中学校の教員の皆様を対象に、アンケート調査を実施することとなりました。何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。
 この調査は、皆様のご生活環境の一部である「竹林」および「竹」に焦点をあて、その活用について「これまで」と「これから」を考慮するため参考させていただくものです。これらの集計結果をもとに、持続性のある大分県の生活環境のあり方を検討し、今後この研究成果が教育現場へも活かされるようにしていきたいと考えております。そのためにも、皆様からのご回答が欠かせません。お寄せいただいたご回答は、すべて統計的に処理いたしますので、皆様にご迷惑をおかけしたり、調査結果を他の目的に利用するようなことは一切ございません。
 ご多忙のこと誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきましたら幸いです。

*お答えいただく前にお読みください

● アンケートは、この用紙（A3二つ折り）1枚です。
 ・【設問】や【問】には、該当する番号に○をつけてください。
 ・4問目以降は、該当する番号すべてに○をつけてください。※複数回答可
 ・_____の記述欄には、直接ご記入ください。

● お手数をおかけしますが、集計の都合上ご回答いただきました用紙は、同封の返信用封筒（切手不要/各学校1封筒）に入れ、できるだけ 8月31日(月)までに郵便ポストへご投函ください。（期限後であってもご返送受けましたら幸いです）

● その他、ご不明な点やご質問などございましたら、下記担当までお問い合わせください。

九州大学大学院 芸術工学部 環境・遺産デザインコース 包清研究室 担当：栗田
 〒815-0032 福岡市南区塩原 4-9-1 4号館3階
 TEL. 092-673-5734 FAX. 092-673-5734
 E-mail : kurita@ip.kyusan-u.ac.jp

-1- ※2面へ続きます。

【設問7】 今後、竹林または竹を使った「授業」や「取り組み」をしたいと思いませんか？
 ※複数回答可です。該当する番号すべてを○で囲んでください。
 ① 竹林を使いたい ② 竹材を使いたい ③ 竹製品を使いたい
 ④ その他（ _____ ）を使いたい
 ⑤ 特に使いたくない（理由は _____ ）

■ 今後、竹林や竹を使った活動や取り組みをしたい、又はしたら良いと思う方にうかがいます。
 ※複数回答可です。該当する番号すべてを○で囲んでください。

【問a】 今後、竹林や竹を使った授業や取り組みをしたい、又はしたら良い「機会」はいつですか？
 ① 正規の授業内 ② 課外授業 ③ 地域の催し ④ その他（ _____ ）

【問b】 今後、竹林や竹を使った授業や取り組みをしたい、又はしたら良い「内容」は何ですか？
 ① 竹林でタケノコ掘り ② 竹林で竹の伐りだし ③ 竹林での環境学習
 ④ 竹筒で吹き込みご飯作りや粥竹を使った流しそうめん ⑤ 丸竹を使ってハンブーダンス
 ⑥ 竹で箸や食器作り ⑦ 竹とんぼ・竹鉄砲や竹馬など遊び道具作り ⑧ 竹でいかだ作り
 ⑨ 竹で楽器作り ⑩ 竹灯籠作り ⑪ 竹で育苗ポット作り ⑫ 竹瓦など建材作り
 ⑬ 竹を使った応急担架作り ⑭ 竹細工を習う ⑮ 竹垣作りを習う
 ⑯ 竹炭や竹酢液作りを習う ⑰ 竹製道具を使って茶道を習う ⑱ 竹の性質を学ぶ
 ⑲ 竹にまつわる生活の歴史を学ぶ ⑳ その他（ _____ ）

【問c】 今後、竹林や竹を使った授業や取り組みをする時にどのような「成果」を期待しますか？
 ① 大分県らしい取り組みだと実感する ② 地域ならではの取り組みだと実感する
 ③ 地域の環境を知り・考える機会になる ④ 地域景観の保全につながる
 ⑤ 地産地消が実践できる ⑥ 地域の人材が活用される ⑦ 竹を扱う技術が継承される
 ⑧ 道具を扱い安全感覚の向上につながる ⑨ 地域住民や技術者などと交流ができる
 ⑩ 交流を通じコミュニケーション力の向上につながる ⑪ 感性を磨くことにつながる
 ⑫ 創造力の向上につながる ⑬ 応急担架作りなどを通じ防災教育として役立つ
 ⑭ その他（ _____ ） ⑮ 特に成果は期待しない

【問d】 今後、竹林や竹を使った授業や取り組みをする時にどのような「課題」が予想されますか？
 ① 教員が取り組みに使える時間不足 ② 保護者の協力不足 ③ 地域住民の協力不足
 ④ 竹を扱う技術者が地域に不足 ⑤ 竹を扱う技術者の連絡先が不明
 ⑥ 竹を扱う道具の不足 ⑦ 竹を扱う道具の確保が困難 ⑧ 竹林所有者との折衝が困難
 ⑨ 短期的な取り組みとしてはいいが継続することは困難（理由は _____ ）
 ⑩ その他（ _____ ）

◆ 以下は、自由記述です。ご意見、ご感想などございましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。以上でご回答は終了です。
 お手数ですが、返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストにご投函いただきますようお願い申し上げます。

-4-

大分県における竹の活用に関するアンケート調査

このアンケートは「地域との関係」を研究する目的ですので、恐縮ですが学校名のご記入をお願い申し上げます。

学校名： _____ 市 _____ 町 _____ 立 _____ 学校 _____ 村 _____
*該当する項目の番号を○で囲み、下線部分には直接ご記入ください。

【設問1】 大分県は全国的にみて「竹の産地」だと思いますか？
 ① 産地だと思う ② どちらともいえない ③ 産地だと思わない

【設問2】 大分県には「竹林」が多いと思いますか？
 ① 多いと思う ② どちらともいえない ③ 多いとは思わない

【設問3】 ご記入いただいた小学校または中学校から最寄りの「竹林」までどの位の時間がかかりますか？
 ① 徒歩0分（隣接） ② 徒歩1～2分程度 ③ 徒歩3～5分程度 ④ 徒歩6～8分程度
 ⑤ 徒歩9～12分程度 ⑥ 徒歩13～15分程度 ⑦ 徒歩15分以上 ⑧ 通学圏内にはない

【設問4】 上記のような通学圏内にある竹林は、どのような「資源」として大切だと思いますか？
 ※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。
 ① 食用（タケノコなど） ② 産業（竹製品の竹材など） ③ 景観（地域らしい風景）
 ④ 自然（生態系の一部として） ⑤ 教育（環境学習の場） ⑥ 教育（材料として）
 ⑦ 個人の財産 ⑧ 地域の財産 ⑨ 資源だと思わない
 ■ 上記の設問に関わるご意見などございましたらご記入ください。

【設問5】 竹林が活用されない、どのような「問題」が生じると思いますか？
 ※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。
 ① 通学環境の悪化（粥竹が通学路を塞ぐなど物理的に悪化） ② 通学環境の悪化（臭い・物騒になるなど雰囲気悪化）
 ③ 費用負担（タケノコなど）の未活用 ④ 地産地消（竹産業など）の低迷
 ⑤ 竹を扱う技術や技術の喪失 ⑥ 景観（地域らしい風景）の変容
 ⑦ 竹の侵入による隣接地への影響 ⑧ 生物多様性（拡大による植生の単一化など）の低下
 ⑨ 公益的機能（森林の持つ水涵養機能や災害防止機能など）の低下
 ⑩ 所有者の個人的な問題 ⑪ 問題だと思わない
 ■ 上記の設問に関わるご意見などございましたらご記入ください。

【設問6】 これまでに、竹林または竹を使った「授業」や「取り組み」をされたことはありますか？
 ※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。
 ① 竹林を使ったことがある ② 竹材を使ったことがある ③ 竹製品を使ったことがある
 ④ その他（ _____ ）を使ったことがある ⑤ いずれも使ったことはない

■ 上記の設問で①・②・③・④のいずれかにご回答された方にうかがいます。
 ※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。

【問a】 これまでに、竹林や竹を使った授業や取り組みをした「機会」はいつですか？
 ① 正規の授業内 ② 課外授業 ③ 地域の催し ④ その他（ _____ ）

【問b】 これまでに、竹林や竹を使った授業や取り組みをした「内容」はどのようなものですか？
 ① 竹林でタケノコ掘り ② 竹林で竹の伐りだし ③ 竹林での環境学習
 ④ 竹筒で吹き込みご飯作りや粥竹を使った流しそうめん ⑤ 丸竹を使ってハンブーダンス
 ⑥ 竹で箸や食器作り ⑦ 竹とんぼ・竹鉄砲や竹馬など遊び道具作り ⑧ 竹でいかだ作り
 ⑨ 竹で楽器作り ⑩ 竹灯籠作り ⑪ 竹で育苗ポット作り ⑫ 竹瓦など建材作り
 ⑬ 竹を使った応急担架作り ⑭ 竹細工を習う ⑮ 竹垣作りを習う
 ⑯ 竹炭や竹酢液作りを習う ⑰ 竹製道具を使って茶道を習う ⑱ 竹の性質を学ぶ
 ⑲ 竹にまつわる生活の歴史を学ぶ ⑳ その他（ _____ ）

【問c】 これまで、竹林や竹はどのように「活用」または「入手」されましたか？
 ① 竹林所有者から頼まれ借りた ② 竹林所有者（顔見知りや保護者など）に頼んで借りた
 ③ 竹林の所有者を探し交渉して借りた ④ 教員が竹林から伐りだした竹材を使った
 ⑤ 保護者が竹林から伐りだした竹材を使った ⑥ 地域住民が竹林から伐りだした竹材を使った
 ⑦ 生徒が竹林から伐りだした竹材を使った ⑧ 所有者が竹林から伐りだした竹材を使った
 ⑨ 職人または専門業者が竹林から伐りだした竹材を使った ⑩ 地域で購入した竹材を使った
 ⑪ 他で地域で購入した竹材を使った ⑫ 他で地域で購入した竹製品を使った
 ⑬ 他で地域で購入した竹製品を使った ⑭ その他（ _____ ）

【問d】 これまで、竹林や竹を使った授業や取り組みをした時にどのような「成果」がありましたか？
 ① 大分県らしい取り組みだと実感した ② 地域ならではの取り組みだと実感した
 ③ 地域の環境を知り・考える機会になった ④ 地域景観の保全につながった
 ⑤ 地産地消が実践できた ⑥ 地域の人材が活用された ⑦ 竹を扱う技術が継承された
 ⑧ 道具を扱い安全感覚の向上につながった ⑨ 地域住民や技術者などと交流ができた
 ⑩ 交流を通じコミュニケーション力の向上につながった ⑪ 感性を磨くことにつながった
 ⑫ 創造力の向上につながった ⑬ 応急担架作りなどを通じ防災教育として役立つ
 ⑭ その他（ _____ ） ⑮ 特に成果はなかった

【問e】 これまで、竹林や竹を使った授業や取り組みをした時にどのような「課題」がありましたか？
 ① 教員が取り組みに使える時間不足 ② 保護者の協力不足 ③ 地域住民の協力不足
 ④ 竹を扱う技術者が地域に不足 ⑤ 竹を扱う技術者の連絡先が不明
 ⑥ 竹を扱う道具の不足 ⑦ 竹を扱う道具の確保が困難 ⑧ 竹林所有者との折衝が困難
 ⑨ 短期的な取り組みとしてはいいが継続することは困難（理由は _____ ）
 ⑩ その他（ _____ ）

-3- ※4面へ続きます。

アンケート調査票（市民活動団体）

平成21年8月
九州大学大学院芸術工学部
環境・遺産デザインコース
緑地環境設計研究室

【大分県における竹の活用に関する調査】へのご協力をお願い

拝啓
皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
現在、私どもの研究室では「竹の活用を基とした地域景観の保全に関する研究」というテーマで研究を進めております。
この度、竹の活用を通じた地域の環境整備のあり方を探るため、大分県で市民活動をされている皆様を対象に、アンケート調査を実施することとなりました。何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。
この調査は、皆様の生活環境の一部である「竹林」および「竹」に焦点をあて、その活用について「これまで」と「これから」を考えるため参考させていただくものです。これらの集計結果をもとに、持続性のある大分県の生活環境のあり方を検討していきたいと考えております。そのためにも、皆様からのご回答が欠かせません。お寄せいただいたご回答は、すべて統計的に処理いたしますので、皆様にご迷惑をおかけしたり、調査結果を他の目的に利用するようなことは一切ございません。
ご多忙のこと誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきましたら幸いです。

*お答えいただく前にお読みください

- アンケートは、この用紙（A3二つ折り）1枚です。
- ・ 【設問】 や 【問】 には、該当する番号に○をつけてください。
- ・ 4問目以降は、該当する番号すべてに○をつけてください。※複数回答可
- ・ 記述欄には、直接ご記入ください。

- お手数をおかけしますが、集計の都合上ご回答いただきました用紙は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、できるだけ 8月24日（月） までに郵便ポストへご投函ください。（期限後であってもご返送いただけます幸いです）

- その他、ご不明な点やご質問などございましたら、下記担当までお問い合わせください。

九州大学大学院芸術工学部 環境・遺産デザインコース 包清研究室 担当：栗田
〒815-0032 福岡市南区塩原 4-9-1 4号館3階
TEL. 092-673-5734 FAX. 092-673-5734
E-mail : kurita@ip.kyusan-u.ac.jp

ご協力ありがとうございました。以上でご回答は終了です。
お手数ですが、返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストにご投函いただけますようお願い申し上げます。

- 4 -

※2面へ続きます。

大分県における竹の活用に関するアンケート調査

このアンケートは地域との関係性を調査する目的ですので、恐縮ですが活動場所等のご記入をお願い申し上げます。

活動団体名： _____
活動場所（住所または地名）： _____
活動人数： _____ 平均年齢： _____
*該当する項目の番号を○で囲み、下線部分には直接ご記入ください。

【設問1】 大分県は全面的にみて「竹の産地」だと思いますか？
①産地だと思ふ ②どちらともいえない ③産地とは思わぬ

【設問2】 大分県には「竹林」が多いと思いますか？
①多いと思ふ ②どちらともいえない ③多いとは思わぬ

【設問3】 ご記入いただいた活動場所へ最寄りの「竹林」までどの位の時間がかかりますか？
①徒歩0分（隣接） ②徒歩1～2分程度 ③徒歩3～5分程度 ④徒歩6～8分程度
⑤徒歩9～12分程度 ⑥徒歩13～15分程度 ⑦徒歩15分以上 ⑧活動圏内にはない

【設問4】 上記のような活動地域にある竹林は、どのような「資源」として大切だと思いますか？
※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。
① 食用（タケノコ） ② 産業（竹製品の竹材等） ③ 景観（地域らしい風景）
④ 自然（生態系の一部として） ⑤ 教育（環境学習の場） ⑥ 教育（材料として）
⑦ 個人の財産 ⑧ 地域の財産 ⑨ 資源だと思わぬ

■ 上記の設問に関わるご意見などございましたらご記入ください。

【設問5】 竹林が活用されない、どのような「問題」が生じると思いますか？
※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。
① 生活環境の悪化（薪竹が建物を傷くなど物理的に悪化）
② 生活環境の悪化（薪竹による霧気や臭気）
③ 食用資源（タケノコなど）の未活用 ④ 地域産業（竹産業など）の低迷
⑤ 竹を扱う技術や技能の喪失 ⑥ 景観（地域らしい風景）の変容
⑦ 竹の侵入による隣接地への影響 ⑧ 生物多様性（拡大による植生の単一化など）の低下
⑨ 公益的機能（森林の持つ水源涵養機能や災害防止機能など）の低下
⑩ 所有者の個人的な問題 ⑪ 問題だと思わぬ

■ 上記の設問に関わるご意見などございましたらご記入ください。

- 2 -

【設問6】 これまでに、竹林または竹を使った「活動」や「取り組み」をされたことはありますか？
※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。
① 竹を使ったことがある ② 竹材を使ったことがある ③ 竹製品を使ったことがある
④ その他（ _____ ）を使ったことがある ⑤ いずれも使ったことはない

■ 上記の設問で①・②・③・④のいずれかにご回答された方へうかがいます。
※複数回答可です。該当する項目の番号すべてを○で囲んでください。

【問1】 これまでに、竹林や竹を使った活動や取り組みをした「機会」はいつですか？
① 通常活動内 ② 小学校 ③ 中学校 ④ 地域の催し ⑤ その他（ _____ ）

【問2】 これまでに、竹林や竹を使った活動や取り組みをした「内容」はどのようなものですか？
① 竹林でタケノコ掘り ② 竹林で竹の伐りだし ③ 竹林での環境学習
④ 竹筒で吹き込みご飯作りや粥竹を使った流しそめん ⑤ 丸竹を使ってハンブーダンス
⑥ 竹で箸や食器作り ⑦ 竹とんぼ・竹鉄砲や竹馬など遊び道具作り ⑧ 竹でいかだ作り
⑨ 竹で楽器作り ⑩ 竹灯籠作り ⑪ 竹で育苗ポット作り ⑫ 竹瓦など建材作り
⑬ 竹を使った応急担架作り ⑭ 竹細工を習う ⑮ 竹垣作りを習う
⑯ 竹炭や竹酢液作りを習う ⑰ 竹製道具を使って茶道を習う ⑱ 竹の性質を学ぶ
⑲ 竹にまつわる生活の歴史を学ぶ ⑳ その他（ _____ ）

【問3】 これまで、竹林や竹はどのように「借入」または「入手」されましたか？
① 竹林所有者から頼まれ借りた ② 竹林所有者（顔見知りや関係者など）に頼んで借りた
③ 竹林の所有者を探し交渉して借りた ④ 会員が竹林から伐りだした竹材を使った
⑤ 参加者が竹林から伐りだした竹材を使った ⑥ 地域住民が竹林から伐りだした竹材を使った
⑦ 所有者が竹林から伐りだした竹材を使った ⑧ 職人または専門業者が伐りだした竹材を使った
⑨ 地域で購入した竹材を使った ⑩ 他の地域で購入した竹材を使った
⑪ 地域で購入した竹製品を使った ⑫ 他の地域で購入した竹製品を使った
⑬ その他（ _____ ）

【問4】 これまで、竹林や竹を使った活動や取り組みをした時どのような「成果」がありましたか？
① 大分県らしい取り組みだと実感した ② 地域ならではの取り組みだと実感した
③ 地域の環境を知り・考える機会になった ④ 地域景観の保全につながった
⑤ 地産地消が実践できた ⑥ 地域の人材が活用された ⑦ 竹を扱う技術が継承された
⑧ 道具を扱い安全感覚の向上につながった ⑨ 地域住民や技術者などと交流ができた
⑩ 交流を通じコミュニケーション力の向上につながった ⑪ 感性を磨くことにつながった
⑫ 創造力の向上につながった ⑬ 応急担架作りなどを通じ防災教育として役立った
⑭ その他（ _____ ） ⑮ 特に成果はなかった

【問5】 これまで、竹林や竹を使った活動や取り組みをした時どのような「課題」がありましたか？
① 活動や取り組みに使える時間の不足 ② 保護者の人数不足 ③ 地域住民の協力不足
④ 竹を扱う技術者が地域に不足 ⑤ 竹を扱う技術者の連絡先が不明
⑥ 竹を扱う道具の不足 ⑦ 竹を扱う道具の確保が困難 ⑧ 竹林所有者との折衝が困難
⑨ 短期的な取り組みとしてはいいが継続することは困難（理由は _____ ）
⑩ その他（ _____ ）

- 3 -

※4面へ続きます。